

平成 21 年度 活動報告

1. 教育実践総合センターの概要

(1) センター設立の趣旨

21 世紀を迎え、国際化・情報化の進展、科学技術の発達、少子化・高齢化の進行、環境問題等、現代社会は複雑化・深刻化してきており、未来を生きる子どもたちの教育についても混迷を深めてきている。学校教育も大改革の時代を迎え、新しい教育課程の創造、総合的学習、学力問題、特別支援教育など新しい課題に直面している。子どもを取り巻く状況もいじめや不登校の益々の深刻化、低学年での学級崩壊や教師に対する暴力、アスペレーション・クライシス等々の早急に対応しなければならない課題を突きつけてきている。

本学教育実践総合センターは、こうした学校教育を取り巻く諸問題に現実的に対処すべく、旧教育工学センターと旧教科教育センター（学内措置による）とを発展的に改組して、平成 9 年度に設立された。

(2) センターの目的

センターは、“教育実践及び教育臨床にかかわる理論的、実践的並びに実際的研究を行うとともに、学校教育諸問題に適切に対処することのできる教員並びに教育実践の指導者の養成に寄与すること（愛知教育大学教育実践総合センター規程第 2 条）”を目的としている。

(3) センターの構成

このセンターは 2 部門 3 分野（教育実践基礎研究部門－教科教育研究分野、教育臨床研究部門－発達支援基礎研究分野・教育臨床分野）からなり、教授 1、客員准教授 1（愛知県教育委員会）の教員組織と事務職員 1、事務補佐員 1 の事務組織および学内外の研究員および研究協力員とによって運営されている。

平成 21 年度の各分野の研究員、研究協力員の实数は下表の通りである。

部 門	分 野	研 究 員			研究協力員
		学内	附属学校園	合計	
教育実践基礎研究部門	教科教育研究分野	40	16	56	18
教育臨床研究部門	発達支援基礎研究分野	6	0	6	3
	教育臨床分野	6	0	6	40

2. 研究活動

センターでは先に述べた、1 名の専任教員と客員准教授及び多数の研究員・研究協力員が教育研究に従事している。今年度は、主に次のような活動を行った。

◎教育実践基礎研究部門

<教科教育研究分野>

(1) 運営

本年度も専任教員が転出し不補充であるため、2009 年 4 月にメンバー集まり、下記のように任務を分担してこの分野を運営していくことにした。なお、代表は野田敦敬とした。

- ① 人材データベース …… 宮川秀俊、江島徹郎
- ② スコープ編集・発行 …… 松本昭彦、土屋武志
- ③ 大学－附属学校連携 …… 森 勇示
- ④ 学内外を集めた研究会 …… 丹藤博文、平野俊英
- ⑤ センター紀要の編集 …… 山田篤史、建内高昭
- ⑥ 教科書収集・整理 …… 山田 綾、新山王政和

(2) 人材データベース

平成 22 年度版もまた学校側から見たときに記載内容がわかりやすいように工夫し、充実した内容で発行する。

(3) スコープ編集・発行

今年度は「学生に期待すること・大学に期待すること」を特集テーマとした。

(4) 大学一附属学校連携

愛知教育大学・附属学校共同研究会の参加者数は、大学教員の延べ数は123人、実数100人、附属学校教員の延べ数は274人、実数196人、両者合わせると延べ397人、実数では296人である。

代表者会は2009年6月17日に開催された。また全体研究会は、2009年8月5日に、大学の安全教育シンポジウム後、午後3時から開催された。なお、各分科会毎の研究会は随時開催された。

報告書は、平成18年度から電子媒体で発行している。

(5) 研究会

下表の通り研究会を実施し、テーマについて活発な討論が行われた。

日 時	テ ー マ	提案者
4月22日(水) 17:30～	「評価の観点と教科内容－保健体育から－」	森 勇示 (保健体育)
5月27日(水) 17:00～	「教科教育の課題を探る －教員養成スタンダードについて－」	平野 俊英 (理科)
9月30日(水) 17:00～	「消費社会における・子ども・学校・教師 －諏訪哲治『オレ様化する子どもたち』を読む－」	丹藤 博文 (国語)
10月28日(水) 17:00～	フィンランドの教育について 「教育で生き残る」 「フィンランドのものづくり教育」	エリナ大山 (美術) 宮川秀俊 (技術)
11月25日(水) 17:00～	「判決書教材を活用した人権教育」	真島 聖子 (社会科教育)
1月27日(水) 13:00～	「教育改革と教科教育－教員養成系大学のあり方を 中心に」	岩田 康之 (東京学芸大学教 員養成カリキュラム開発 研究センター)

(6) センター紀要

教育実践総合センター紀要(第13号)を編集発行した。

(7) 教科書収集整理

本年度も引き続き教科書の収集と整理を行った。

◎教育臨床研究部門

<発達支援基礎研究分野>

分野研究会

第1回研究会/2009年9月21日(月)13:30から

テーマ:「よりよい子どもの育ちに向けて親ができること－愛知県における乳幼児調査を中心に－」

会 場: 愛知教育大学

話題提供: 品田知美さん(立教大学ほか非常勤講師)

「SOBA」による学習会(毎週火曜日: 大学生によるピアサポートの学習、子どもとの交流イベントの企画・準備、Eメールなどへの返信案作成など)

しえんサロン(発達支援学習会)

第1回/2009年7月7日(火)17:00から

「多様な子どもの放課後の居場所づくり タイムケア事業の活動を通じて」

(講師：NPO 法人 金曜グループ 田嶋 綾子氏)

第2回／2009年11月11日(火) 16:40から

「体験！CAPワークショップ」(講師；あいちCAP 杉浦登喜子氏ほか)

<教育臨床分野>

教師等との共同研究会

愛知学校教育相談事例研究会(毎月第2金曜夜間, 夏期・冬期合宿各1)

愛知教育大学心理療法研究会(毎月第4金曜夜間)

附属学校園との共同研究会(いじめ・不登校・学級崩壊分科会)

第1回：6月17日(水) PM2:00～4:30 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 自閉傾向を疑われている小3男子とのプレイセラピー過程

第2回：7月15日(水) PM2:00～4:30 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 場面緘黙の小2男児とのプレイセラピー過程

第3回：9月16日(水) PM2:00～4:30 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 友人関係がきっかけで学校に行けなくなった15歳女子との面接過程

第4回：10月21日(水) PM2:30～5:00 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 先天性心疾患を抱える学校に行きづらい高1男子との言語面接過程

第5回：11月18日(水) PM1:00～3:30 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 運動機能に発達遅れがみられる4歳女児とのプレイセラピー過程

第6回：12月16日(水) PM2:00～4:30 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 育児不安を繰り返し訴える境界例といわれた母親との面接過程

第7回：1月20日(水) PM2:00～4:30 教育実践総合センター3F(演習室)

[事例発表] 「話を聴いてほしい」高2女子との面接過程

3. センター教員の学部・大学院教育への参与状況

教官名	担当教科	必・選	単位	学年	人数	備考
生島 博之	こころとからだセミナー	選	2	3	29	学部(2人で分担)
生島 博之	臨床心理実習Ⅰ	必	1	M	23	学校教育臨床専攻
生島 博之	臨床心理実習Ⅱ	必	1	M	23	学校教育臨床専攻
生島 博之	臨床心理面接Ⅰ(昼)	必	2	M	12	学校教育臨床専攻
生島 博之	臨床心理面接演習Ⅰ	選	2	M	4	学校教育臨床専攻
生島 博之	臨床心理面接演習Ⅱ	選	2	M	10	学校教育臨床専攻
生島 博之	犯罪心理学特論	選	2	M	21	学校教育臨床専攻
生島 博之	修論指導 (特別研究Ⅰ)	必	2	M1	3	学校教育臨床専攻
生島 博之	修論指導 (特別研究Ⅱ)	必	2	M2	5	学校教育臨床専攻

なお、学校教育臨床専攻では、当センター心理教育相談室での臨床実践(教員が院生とペアで相談

ケースを担当すること)を、授業(講義、演習、実習)と同程度に実施した。そして、これらのケースに関する指導院生などへの個別スーパービジョンも実施した。

教官名	担当教科	必・選	単 位	学 年	人 数	備 考
川北 稔	地域づくりと生涯学習計画	選	2	3	135	学部教育科目
川北 稔	平和と人権入門	選	2	1	5	学部教育科目
川北 稔	問題行動の理解と生徒指導・相談活動の進め方	必	2	M	28	教職実践専攻
川北 稔	問題行動対応論	必	2	M	17	教職実践専攻
川北 稔	問題行動解決支援演習	選	2	M	2	教職実践専攻
川北 稔	課題実践計画の研究	必	2	M	1	教職実践専攻

4. 教育事業

センターでは、本年度に次の教育事業を行った。

①教師等のための公開講座の実施

『学校教育臨床－事例研究A－』

(21.6.20.～22.3.6. 全9回27時間、主任講師：生島博之、参加者12名)

『箱庭づくり体験』

(21.6.21. 5時間、主任講師：生島博之、参加者29名)

『教育臨床セミナー』

(21.8.18.～21.8.19 2日集中11時間、主任講師：生島博之、参加者26名)

②附属岡崎中学校及び附属名古屋中学校でのスクールカウンセリングの実施

(20.12.3.～21.11.30.全26回133時間)

③教育臨床分野による教育事業

実践力の優れた臨床心理士を養成するために、学校教育臨床専攻の臨床心理士教員および客員教員との合同で、臨床心理学コースの大学院生の臨床実習として、ケースカンファレンスを実施してきている。さらに、修了生へのアフターケアとして愛知教育大学心理療法研究会を行い、グループ・スーパービジョンもおこなっている。

	修了生	M2	M1	4年	3年	2年	1年	合計
ケースカンファレンス①	1	23	10					34
ケースカンファレンス②		5	10					15
愛教大心理療法研究会	15							15

1) ケースカンファレンス① (センター協力員・院生スタッフ対象, 34名) 15回 教員4名

2) ケースカンファレンス② (いじめ・不登校・学級崩壊プロジェクトを兼ねる) 7回

教員3名 院生15名 内地留学生4名 附属中教員2名

3) 愛知教育大学心理療法研究会 毎月1回 臨床心理士(愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻臨床心理学コース修了生)15名

4) 愛知学校教育相談事例研究会 毎月1回(含合宿研修=夏期・冬期)小中高教員等30名

5. 相談事業

本年度に、教育実践総合センターでは、以下の相談活動を行った。

1) 電子メール、FAXによるいじめ相談

学生を主体とするボランティアグループ「SOBA」(Symposium of Bullying in Aichi)は、子どものエンパワメントについて学習しながら、グループ自体がピアサポートの場となることをめざして、ロールプレイなどのプログラムを体験している。また学習の成果を、子どもとの交流イベントの企画・実行や、電子メール・FAXを利用して寄せられる「いじめ」体験への返信活動などに生かしている。

事項	対象	件数	時間	担当者等
電子メール、FAXによるいじめ相談“SOBA”	一般	8	随時	川北 稔, SOBAメンバー

2) 面接教育相談

センター教育臨床分野が中心となり、愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室を運営してきた。ここでは、いじめ・不登校をはじめとする面接教育相談に応じてきており、毎週1回1時間の親子併行面接を基本として、カウンセリング、箱庭療法、プレーセラピー、等の技法を用いたインテンシブな心理療法を行ってきた。

同時に、この面接教育相談は学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生の臨床実習の場にもなっており、臨床心理士資格をもつ教員(センター教員並びに学校教育臨床専攻臨床心理学コース教員)がグループスーパーヴィジョンをしながら、大学院生にも担当させてきた。また、ほぼ月3回の割合でケースカンファレンスを持ち、大学院生の臨床教育の一環としてケース検討を行った。

本年度(平成20年12月1日～21年11月30日)の面接教育相談の概要は以下の通りである。

事項	対象	人数	時間	担当者等
①外来面接相談	一般	149	1608	生島博之, 他学内臨床心理士教員
②対教師等相談	教師等	80	118	
内訳:				
①外来面接相談				
受付ケース数	143	(149人)	総面接回数	1608回
前年度からの引継ぎ	92	(95人)	総面接時間	1608時間
新規受付	51	(54人)	面接回数範囲	1～41回

<問題別>				
不登校・不登校傾向	48		家庭内暴力	0
対人関係の問題	20		いじめられ	1
場面緘黙	13		育児不安	3
遺尿・吃音・チック	3		強迫傾向	5
発達障害	28		虐待	3
感情のコントロール	3		対人恐怖症	2
非行・怠学	3		摂食障害	0
落ち着きがない・易怒性	2		その他	30
生活の乱れ	3			
自分(の性格)について	8			

<面接形態別>			
単独面接（本人）	29	父母子並行面接	6
親（母）面接	15	母子並行面接	87
父子並行面接	6	その他	5
<年齢区分別>			
幼児	6	高校生，16～20歳	12
小学生	20	成人	29
中学生	20	親による子の相談	59
<帰結別>			
終結	43	中断	8
継続中	100		
②対教師等相談			
受付ケース数	68	総面接回数	68回
前年度からの引継ぎ	2	総面接時間	118時間
新規受付	66		
<問題別>		<帰結別>	
幼稚園・保育園学級運営	(0人)	終結	66
学級運営	19(24人)	継続中	2
スクールカウンセラーへのスーパービジョン	21(21人)		
電話相談員へのスーパービジョン	12(17人)		
こころの教育相談員等へのスーパービジョン	7(7人)		
病院・クリニックのスタッフへのスーパービジョン	6(7人)		
その他	3(4人)		

6. 地域・教育委員会等と連携した活動

センターでは、本年度に地域・教育委員会等と連携して、次の活動を行った。

① 愛知県教育委員会派遣教員内地留学生4名の臨床教育（大学院レベルの受け入れ）

近藤 和己 「ブリーフ・セラピーの姿勢や技法を活用した教育相談に関する一考察」

鈴木 照 「校内連携と校内研修」
－母親の訴えを通して－

祖父江 知栄子 「不登校傾向を示す高校生への担任の役割」
－父性的な関わり、母性的な関わりの視点から－

横山 めぐみ 「教育相談係の役割－アンケート結果より職員との関わりを中心に活動のあり方を考える」

② 県・各市教育局委員会との連携

- | | |
|---|-------|
| 1) 供米田中学校・校内研修（講師：生島博之、参加者20名） | 6月30日 |
| 2) 豊明市初任者研修（講師：生島博之、参加者16名） | 8月5日 |
| 3) 愛知県総合教育センター・学校教育相談上級講座
（講師：生島博之、参加者37名） | 8月24日 |
| 4) 日吉小学校・校内研修会（講師：生島博之、参加者18名） | 9月28日 |

- 5) 西三河地区教育相談研究会（講師：生島博之、参加者 15 名） 10 月 16 日
- 6) 尾北地区高等学校生徒指導研究会（講師：生島博之、参加者 20 名） 11 月 10 日
- 7) 豊田市栄養教諭・学校栄養職員研修会（講師：生島博之、参加者 25 名） 1 月 26 日
- 8) 桶狭間小学校・校内研修会（講師：生島博之、参加者 15 名） 2 月 1 日
- 9) 東郷町立音貝小学校・保健委員会研修会（講師：生島博之、参加者 20 名） 2 月 15 日
- ③ 県・各市教育委員会のいじめ・不登校・問題行動対策委員会等への協力（愛知県，名古屋市，豊田市，ほか）
- ④ SOBA メンバーによるフリースクール「クツナ池の原センター」でのボランティア活動（2009 年 8 月）
- ⑤ SOBA メンバーによる刈谷市教育委員会「キッズクラブ」（刈谷市北部生涯学習センター）の企画と実行（2009 年 7 月 18 日、12 月 19 日）
- ⑥ ひきこもり家族教室（江南保健所）講演「ひきこもりの理解と対応」（講師：川北稔）（2009 年 10 月 1 日）
- ⑦ 「ひきこもり地域支援センター」シンポジウム in なごや（名古屋市主催）コメンテーター（川北稔）（2009 年 10 月 24 日）

7. 教育実践総合センター刊行物

センターでは，本年度に次の刊行物を刊行した。

- 1) 『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第 13 号（平成 22 年 2 月）
- 2) 『SCOPE II』第 13 号（平成 22 年 3 月）
- 3) 『学校教育支援データベースー2010 年度ー』（平成 22 年 3 月）
- 4) 『教育臨床事例研究』第 22 号（平成 22 年 2 月）
- 5) 『教育臨床学研究』（愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室紀要）11 号（平成 22 年 3 月）
- 6) 『SOBA 活動報告書』第 7 号（平成 22 年 3 月）

8. その他の活動

その他，センターでは，本年度に次の活動を行った。

- 1) 「学校教育支援データベース」の作成とその活用（愛知県内小・中学校の教師，保護者，児童・生徒向けの支援の紹介）
- 2) 教科書データベースの管理

9. 事業日誌

- 4 月 11 日 ケースカンファレンス（以降毎月 2 回の頻度で開催）
- 4 月 10 日 愛知学校教育相談事例研究会（以降毎月 1 回開催，対象：教員等）
- 4 月 22 日 第 1 回教科教育分野研究会
- 4 月 24 日 愛知教育大学心理療法研究会（以降毎月 1 回開催，対象：OB 臨床心理士ほか）
- 4 月 28 日 第 1 回教育実践総合センター委員会
- 5 月 27 日 第 2 回教科教育分野研究会
- 6 月 6 日～6 月 7 日 愛知学校教育相談事例研究会宿泊研修（伊良湖）
- 6 月 20 日～3 月 6 日 公開講座「学校教育臨床ー事例研究 Aー」（全 9 回，対象：教員・保育士等）
- 6 月 21 日 公開講座「箱庭づくり体験」（対象：一般）
- 7 月 7 日 しえんサロン（発達支援学習会）
- 7 月 18 日 刈谷市キッズクラブへの参加（子どもとの交流プログラムを企画・実行）
- 8 月 5 日 第 1 回教育臨床分野研究会（いじめ・不登校・学級崩壊等分科会を兼ねる）
- 8 月 18 日～19 日 公開講座「教育臨床セミナー」（対象：教員等）
- 8 月 SOBA メンバーによるフリースクール「クツナ池の原センター」でのボランティア活動
- 9 月 21 日 第 1 回発達支援基礎研究分野研究会（子育て・子育て研究会との共催）
- 9 月 30 日 第 3 回教科教育分野研究会
- 10 月 28 日 第 4 回教科教育分野研究会

11月11日 しえんサロン（発達支援学習会）
11月18日 センター紀要編集委員会
11月25日 第5回教科教育分野研究会
11月29日 第2回発達支援基礎研究分野研究会（子育て・子育て研究会との共催）
12月19日 刈谷市キッズクラブへの参加（子どもとの交流プログラムを企画・実行）
1月8日～9日 愛知学校教育相談事例研究会宿泊研修（井ヶ谷荘）
1月27日 第6回教科教育分野研究会
2月中旬 「愛知教育大学教育実践総合センター紀要」第12号発行
2月中旬 「教育臨床事例研究」第22号発行
3月 「SCOPE II」（教科教育研究分野ニュースレター）No.13発行
「学校教育支援データベース-2010年度-」発行
SOBA活動報告書 第7号発行
「教育臨床学研究」（センター心理教育相談室紀要）第11号発行
「SOBA活動報告書」第7号発行